

地名：イチャン／ichan／一已

鮭の産卵場

イチャンはアイヌ語で「鮭の産卵場」という意味があります。松浦武四郎が作成した「東西蝦夷山川地理取調図」では、現在の緑町の所に石狩川の旧流があり、その辺りをイチャンとしています。また、同じく松浦武四郎が作成した「登加知留宇知之日誌」には、音江町広里地区に有ったコタンを指して「イチャンに着す」と書かれており現在の一已とは少し場所が違うようです。明治24年に北海道庁から出された「北海道植民地撰定報文」には「東ヲサナンゲプ川、西メム川及びオホウ（オオホナイ）大湿地、南石狩川、北ニウシタプコプ山脈（コップ山に続く山々）をイヂヤン地方となす」とあり、こちらは今の一已と場所が一致します。なお、一已の漢字をあてたのは深川に配備された屯田兵の大隊長です。

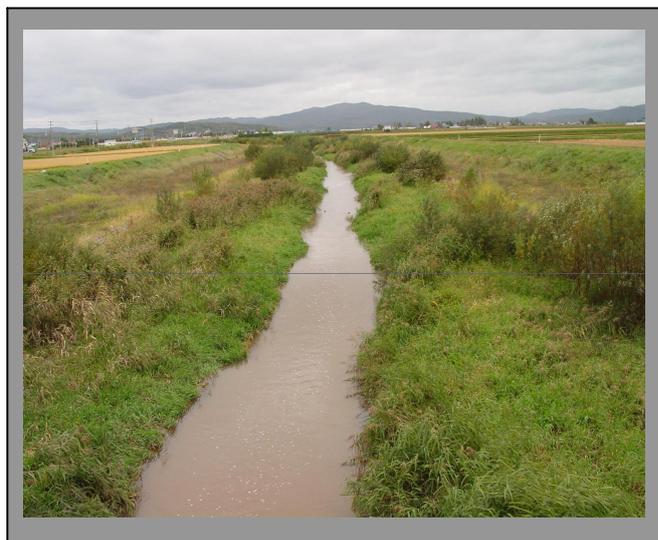


【一已地区】

地名：ニウシペツ／ni-ush-pet／入志別

樹が・群生している・川

アイヌ語のニ・ウシ・ペツが語源で、「樹が・群生している・川」という意味があります。入志別川は、現在一已町7丁目で石狩川に流れ出ていますが、明治30年頃の深川市街付近図では市街地を流れ、メム11号線（1丁目）あたりで石狩川に流れ出ていました。アイヌの人たちは現在の深川市街あたりをニウシペツと呼んでいたようです。



【入志別川】